



は 励んで光る
た 愉しんで光る
つ つながって光る



文責: 富永 千晶

6年生「卒業プロジェクト ～地域のごみ拾い～」

卒業まで残り1週間となった6年生が、感謝の気持ちを表すために、様々な「卒業プロジェクト」に取り組んでいます。その中の1つとして、地域に恩返しをこめて学校周辺のごみ拾いを行いました。3グループに分かれて周辺の道路脇、あぜ道等を歩いて拾いましたが、60分間でご覧のようにたくさんのごみを集めました。(予想以上の量だったので、袋が足りなくなるほどでした) 子どもたちもあまりのごみの多さとその内容に驚いた様子でした。

たばこの吸い殻、アルコールの缶・・・これは大人が捨てたものです。

波多津町は海も山もある自然豊かな美しい町です。そんな町に平気でごみが捨てられることは悲しいことですよね。



【60分間でビニール5袋分のごみ】



【たばこの吸い殻の山！】

◆活動後の感想より◆

- こんなにごみが多いとは驚いた。とても汚かった。
- ずっと昔のごみがあって、拾われてないままだった。
- これらのごみは全て人が出したもの。何でここに捨てるのか分からない。
- 大人が捨てたごみが多かった。大人はしっかりして欲しい。
- 看板を立てて呼びかけたい。

これって大人が捨てたごみだよね…



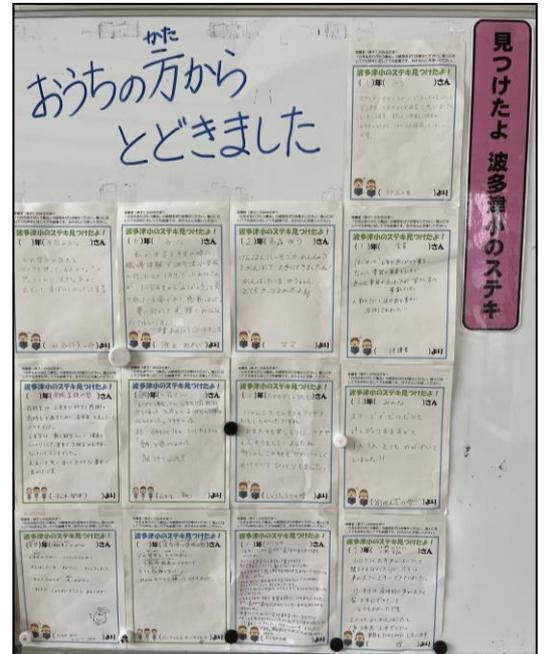
【ビールの空き缶が道路に！？】

「ありがとう集会」への感想ありがとうございました

写真のように、児童玄関のホワイトボードに掲示して、子どもたちに紹介しております。これからも、子どもたちへの励ましをよろしくお願いします。

【一部抜粋して紹介します】

- どの学年も大きな声で一生懸命発表できていて、とても感動しました。みんなキラキラ輝いてステキでした。
- 6年生が在校生を思う優しさ、在校生のありがとうの気持ちが伝わりました。「絆」が感じられました。
- 6年生は、最上級生らしく下級生のお手本になっていました。お互いを思い合っけてステキな集会でよかったです。
- どの学年の発表も「マイクを使っているのかな？」と思うくらい大きな声が出ていて、すばらしかったです。



3/11(月)「異学年 読み語り」

朝の時間に、異学年ペア（1年生と4年生、2年生と5年生、3年生と6年生）での読み語りを行いました。下学年の子どもたちは、事前に読んで欲しい本をリクエストしていました。上級生の読み語りを聞いて、大変喜んでいる様子でした。



能登半島地震

支援の輪

青嶺中校区の 小中学生が募金

伊万里市
小、波多津小、青嶺中の児童生徒が、能登半島地震の被災地を支援するための募金活動に取り組んだ。集まった約5万3千円を日本PTA全国協議会に託

伊万里市の黒川小、波多津小、青嶺中の児童生徒代表



能登半島地震の義援金を集めた黒川小、波多津小、青嶺中の児童生徒代表＝伊万里市の青嶺中

す。青嶺中の生徒会が企画し、校区内の2小学校に協力を呼びかけた。各校で募金箱を設置したり、教室を回ったりして義援金を集め、2月27日に代表者が持ち寄って一つにまとめた。

同3年で元生徒会長の松園心響さんは「被災地の様子をテレビで見ても、できることをしたいという気持ちになった。母校の後輩たちも協力してくれてうれしかった」と話した。（青木宏文）

紙面編集・灰塚ちひろ

佐賀新聞掲載記事 三月一日(金)